

## 第 1 回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成 27 年 4 月 20 日（月） 15:00 - 17:00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、藤井委員、薬師寺委員、山崎委員

(2) 政府側

中村宇宙戦略室審議官、内丸宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、中村審議官挨拶、委員紹介の後、松井座長より、座長代理として薬師寺委員が指名された。

(1) 宇宙科学・探査小委員会の検討事項について

資料 1 から資料 4 等に基づき事務局から説明を行った。これを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、質問・意見等、事務局回答）

宇宙科学は、今回の宇宙基本計画の宇宙産業・科学技術基盤の柱に含まれるのか。

価値を実現する科学技術基盤の維持・強化には宇宙科学の発展は当然含まれる。

宇宙科学における必要な人材の育成が本小委員会の検討事項として明記されていないのは、人材育成が全分野にわたる取組だからなのか。

一般的な人材育成については、宇宙産業・科学技術基盤部会にて議論されることとなる。一方で、宇宙科学・探査小委員会では、宇宙科学・探査に関わる人材の育成について主として検討することとなる。このため、宇宙産業・科学技術基盤部会とも連携して議論していきたい。

研究者のキャリアパスの問題もあるので、産業界との関係も議論したい。

(2) 宇宙科学・探査ロードマップの状況について

資料 5 に基づき宇宙航空研究開発機構から説明を行った。これを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。

太陽系探査科学分野については、プログラム化も行いつつ進めることとなっているが、プログラム化を行うとそれで全て占められ、ボトムアップで新たな提案が出てた時に今後の計画に反映されないことがあるのではないか。

約 10 年間に戦略的中型が 3 機、公募型小型が 5 機あるのだから、その中のいくつかがプログラム化に充てられ、残りはボトムアップで進めることができるのではないか。

プログラム化をするに当たって、どのプロジェクトを当該プログラムに割り当てるかは具体的な提案を見る必要がある。

宇宙科学・探査に関する工程表が順守されるように宇宙科学研究所において、平成28年度要求に向けた必要な検討が進められるべき。

以 上